

公開研究会 「治安政策と憲法」

2009年7月25日(日)

みなさんは、「海賊対処法」をご存じでしょうか。今年の6月19日に成立した法律で、「テロとのたたかい」を根拠づけるものです。わたしたちは「安全・安心」のある社会を求めますが、治安を強化することで、わたしたちの生活に逆に不自由が生じることがあります。

この研究会では、刑事法学の村井敏邦教授によって「海賊対処法」を素材に治安政策の現状と課題が語られました。また、憲法学の浦部法穂・HuRP理事長が、憲法の視点から治安政策のあり方を語りました。



村井敏邦 教授

村井教授は『「日本は世界一安全という神話は崩れた」とよく言われますが、果たしてそうでしょうか。日本に来た観光客の90%は『日本は安全』と答えたという統計もあります。また、70年代のころから地域社会の人々の関心に重点を置き始めた治安政策の展開が、地下鉄サリン事件を経てテロ対策と結びつけられました。日本はアメリ

カよりも敏感に9.11テロをとらえているとのことです。統計上では不安を感じている人が増えているという結果は出ていません」と、『不安増大を解消させるための治安強化』に疑問を呈しました。



浦部法穂 教授

浦部先生は「海賊対処法は自衛隊を海外に出しただけの法律です。また、昨今のインフルエンザ騒動や臓器移植法の性急な成立など、わたしたちは、多面的なものの見方ができずに、権力に対する警戒心がなすすぎるように感じます」とコメントしました。

質疑応答では、村井先生は「現在、『敵刑法』という考え方が出ています。これは、刑法の領域でカバーできない領域を指し、そこをカバーしようというものです。海賊対処法をこの考え方で容認するという論調がありますが、憲法9条が軍隊を容認していない以上、反対です」と述べました。

浦部先生は「権力に対する警戒心を鍛えるには、情報を求めていくことから始めてください。例え

ばインターネットは玉石混淆ですが、ともあれ情報は手に入ります。そこから考えるヒントがあります」と述べました。

考えるための情報が多すぎて、整理できずに権力にその身を委ねがちにならないように、わたし

たちができることはなんでしょうか。まずは、散らかった（頭の）机の整頓から始めようかと思いました。（T司）

法学館憲法研究所主催 連続講演会 **日本国憲法と裁判官** 2009年7月16日（木）

2009年5月21日、市民が裁判に参加する裁判員制度がスタートしました。この講演は、実際に裁判官の仕事をしてきた方々の講演会を毎月開催し、憲法と裁判官の役割、裁判とはどのような場なのか、裁判員には何が期待されるのか、などを語っていただくものです。

第三回目は、鈴木経夫さんと宮本康昭さんの講演でした。



鈴木経夫さん

鈴木さんは自身が戦後の新憲法の中で任官したこと、司法修習生時代に「自ら出した判決が高裁・最高裁でひっくり返っては当事者に迷惑がかかる。よく考えて判決は出すべきだ」と、判決を出す難しさを説かれたことなどを話されました。

また、このあと話される宮本さんの再任拒否について、「その後の徹底した裁判官に対する統制を見れば、その意図は明らかです。政府の圧迫だけではなく、最高裁判所自身の発想であったことは問題です」と述べました。

宮本さんは1971年3月、判事補だったとき、最高裁判所に判事補の再任を拒否されました。その理由は明らかにされていませんが、宮本判事補

が青年法律家協会（青法協）に所属していることがためではないかといわれています。当時、憲法を擁護することを誓い合った法律家団体＝青法協に加入している裁判官を政治家が攻撃し、最高裁判所も裁判官の青法協への加入を問題視するようになっていたのです。



鈴木経夫さん

宮本さんは「60年代に、青法協に入る裁判官が増え、民主的な判決が増えたことに対する権力者のおそれが、裁判官批判、ひいては最高裁が青法協つぶしに権を切ることになったのです。これは、戦後司法の最大の過ちであると思います」と述べました。

そして、司法の現状について「残って欲しいと思った人がずいぶん辞めていった。その人達が残っていれば、もっと良くなっていたにちがいありません。ただ、簡易裁判所の対応が以前と比べたいへん良くなったことなど、悪い方向にだけ進んでいるわけではないと思います」と述べました。

質疑応答では、鈴木さんは裁判官について「裁判官は平均的な常識を持っているが、世の中全てを知っているわけではありません。また、使命感

まる出しの人はあまりいません」と述べ、これからの裁判、裁判員制度について「裁判員制度は現在の刑事裁判に風穴を開けてくれるのではと期待しています。裁判官を目指す人には、ちゃんとした人に裁判官になってもらいたい。そうでないと弁護士や被害者、被疑者のみんなが困ることになります」と述べました。

宮本さんは「今のままではいけません。市民の声が入らなければならない。そのための裁判員制

度です。法曹、裁判官になる志がある人はぜひなってほしい。今、20年前では考えられなかった判決が出ています。国民の関心と若い力が裁判所を変えられるのではないかとも思っています」と述べました。

8月3日に裁判員制度による初公判が開かれます。おふたりとも期待を寄せている、これからの裁判がよりよいものになるかどうかの、第一歩が踏み出されようとしています。(T本)



憲法と平和を見つめ直す2冊

『長沼事件平賀書簡』『9条は生かせる』

◆『長沼事件平賀書簡』

——35年目の証言、自衛隊違憲判決と司法の危機——

福島重雄・大出良知・水島朝穂 編著

ISBN: 978-4-535-51641-0 2009.04刊行 日本評論社/税込2,835円

1973年9月7日、札幌地裁は「長沼事件」で初の自衛隊違憲判決を下しました。この判決は、国内外で大きな反響を呼びました。同時に、判決に至る過程で発生した札幌地裁・平賀健太所長による裁判干渉は、「平賀書簡問題」として世に知られることとなりました。

判決から35年。多くを語らなかった福島重雄元裁判長が初めて違憲判決に至るさまざまな過程、「平賀書簡」を詳細に語ります。そして「平賀書簡」以降、裁判所全体を巻き込んだ「司法の危機」の深層を当事者たちが明らかにします。今なお続く憲法9条と司法権の独立という2つの問題に関わった当事者による35年の空白を埋める歴史的証言の書です。

第1部 長沼自衛隊違憲判決は、いかにして生まれたか/福島重雄+水島朝穂

第2部 平賀書簡問題と司法の危機

福島重雄+宮本康昭+守屋克彦+鈴木経夫+大出良知

第3部 資料編

◆9条は生かせる

9条世界会議国際法律家パネル 編

ISBN: 978-4-535-51680-9 2009.05刊行 日本評論社/税込1,890円

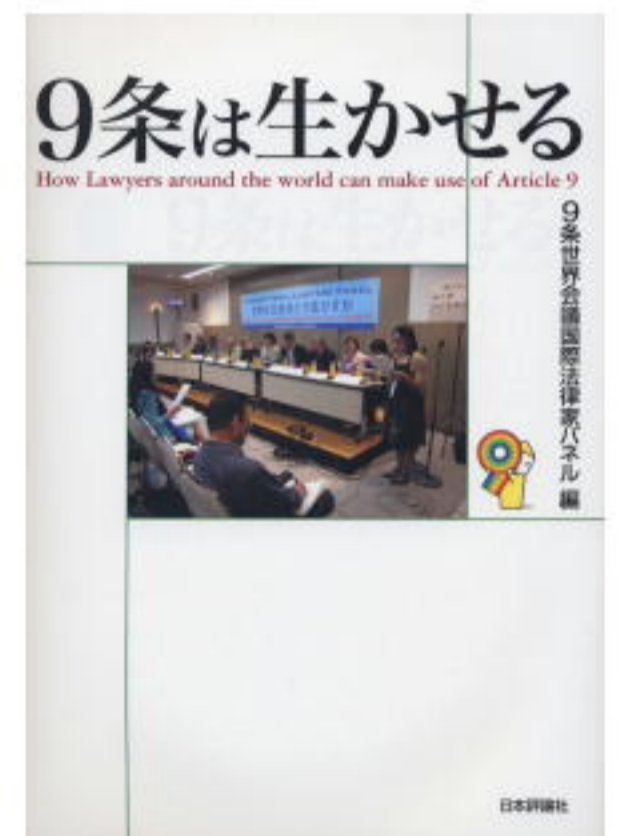
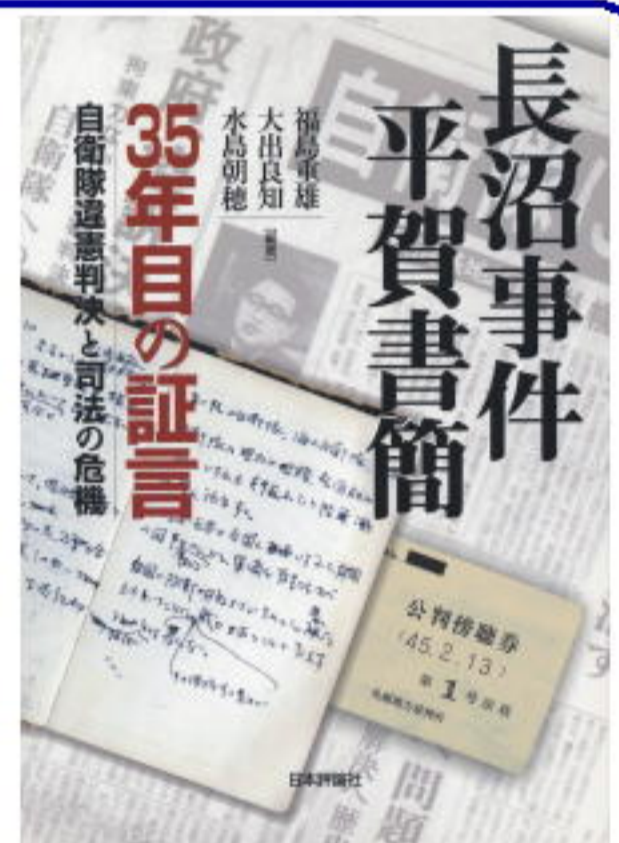
憲法9条を現実の政治、社会で生かすために何が必要か。世界の法律家が、その国の状況と重ね合わせ、自衛隊イラク派遣違憲判決の意義ともあわせ、具体的方法と展望を語ります。

第1部 国際法律家パネル「世界の法律家は日本の9条をどう生かすか」

第2部 座談会 名古屋高等裁判所自衛隊イラク派遣差止訴訟違憲判決

愛敬浩二+池住義憲+川口 創+笹本 潤

第3部 資料でたどる平和への権利



さまざまな言語で書かれた、人権や平和についての文章を原文で読んでみませんか？

その国の豊かな精神文化にふれて、毎回、何かひとつ言葉を覚えて帰れば、それまでと違った視点で物事を見ることが出来るかもしれません。

第4回は昨年のHuRP 3周年イベント「人権ツアーに行こう！」の「軍隊のない国家」の一国として、大使館での取材やビデオメッセージに協力いただいたサンマリノ共和国大使館のマンリオ・カデロさんに、世界最古の共和国であるサンマリノのあらましと簡単なイタリア語を

お話しいただく予定です。世界最古の共和国は、いかにして軍隊のない国家になったかなど、昨年お伝えしきれなかったところを生で聞ける格別の機会です。ぜひ、この機会に参加してサンマリノのことをもっと知りましょう！

第4回：イタリア語

講師：サンマリノ共和国大使館特命全権大使 マンリオ・カデロさん

【10月上旬に行う予定です！】

【詳細が決まり次第お伝えします！】

カラダに平和を 自炊のススメ

38 渋谷さんまのかばやき

会社の方に浅草の「駒形どぜう」に連れて行っていただき、どじょう鍋をいただきました。すきやきのようなタレにどじょうを、その上におぎをたっぷりのせて煮込み、山椒と七味唐辛子で食べるのですが、おぎがとてもおいしかったです。今回はどじょうは用意できませんでしたので、さんまのかばやきの缶詰を使ってみました。

材料：さんまのかばやきの缶詰、ねぎ（たっぷり）

手順：

1. ねぎを2～5ミリくらいの小口切りに切る。
2. フライパンに水、しょうゆ、砂糖、めんつゆ少々を入れて火をかける。
3. タレが煮えたらさんまのかんづめを入れ、たっぷりのねぎを敷きつめる。ねぎにタレがしみこんだら完成。

納豆にねぎを入れるのが大好きですが、たくさん食べても1本が限界ですが、2本まるまるたいらげてしまいました。ごはんもおかわりして、とてもおいしかったです。今度は山椒と七味をちゃんと買って食べようと思います。



「三鷹事件」から60年経った今年、展示会と集会が開かれました。展示会では当時の様子を伝える新聞記事や、（でっち上げとの疑いが強い）犯行に使われたという針金など、たくさんの展示と共に、前日放映されたテレビ番組も上映され、勉強になったとともに、今後の活動の参考にもなりました。（写真は三鷹車庫。ここから無人の車両が暴走、事件の発端となりました）（T本）

